

農学部スポーツ国際交流

代表者 富本卓 (農学部応用生物科学科 3 年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、農学部を中心とした留学生と日本人学生の交流を、スポーツを通して行うものです。具体的には、①農学部体育館で毎週火曜日 17 時～19 時にフットサルや卓球・バドミントンを行うことと、②地域の人も含めたスポーツ大会を開催することの 2 点を掲げ活動を行いました。

また、本プロジェクトは 2 年前から始まっており、この度の申請は、①留学生と日本人学生の“輪”を今以上に広げるためにも新規の留学生・日本人学生参加者を増やす事。②香川大学と香川大学の学生へこの有志の活動の知ってもらう事で、大学や学生たちから応援してもらいたいと考えたこと。そして、③地域の人たちを少しでも巻き込んでいくことで香川大学の存在を身近に感じてもらう事を理由に行いました。

ゆえに、スポーツの国際交流はお金が必要ないと考え、予算申請も実際の活動費も 0 円で行っております。



(実際に活動を行っている様子)

2. 実施期間（実施日）

平成29年4月1日から 平成30年3月31日まで
毎週火曜日 午後5時から午後7時までの2時間



3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、農学部を中心とした留学生と日本人学生の交流を、スポーツを通して行うもので、フットサルを毎週火曜日に2時間行うことができました。

また、このプロジェクト事業により、以下記するような成果や影響を与えることができました。詳細を以下記します。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、香川大学へは以下3点の影響を与えたと思います。

まず、「世界に羽ばたくグローバル人材の育成」を行うことができました。この詳細は次項目の6でもお話しさせていただきますが、先んじて、目に見える結果としては、文部科学省の奨学金プログラムであるトビタテ！留学JAPAN～日本代表プログラム～への派遣生を3年間で3名輩出しており、ひとつのサークルやゼミから3名の輩出は**香川大学内ならびに香川県内で最多**を誇っています。これは、留学生と交わる環境に加え、留学を経験した先輩の話や常々聞くことによっても留学を促進できているものと考えられます。

次に、夢チャレンジプロジェクトへ「予算0円」という新しい風を吹かせることができました。私たちも、フットサルを行うにあたって、場所や道具が必要になります。しかし、場所は大学の体育館を借りることで従来あるものを使わせていただきました。道具は持ち寄りました。また、スポーツ保険への加入も団体として加入する必要がありますが、保険は各自学研災など大学で加入必須となっているので、二重の加入はせず、フットサルを行った際に保険が下りるかどうかを確認したうえで参加してもらうようにしました。よって保険代の請求もしませんでした。このように予算はあれば使ってしまうがちですが、なくても代替することで行えるものが多くあります。応募の段階で予算を考えた際に、極限まで絞って、今回は0円でもできると考えました。

そして、将来的には留学生受け入れ体制の評価アップにやがてつながると確信しています。



5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等なんといっても、外国人に対する抵抗を持っていた日本人学生が、スポーツを通して交わることで、積極的に関わることができるようになったことです。具体的な例としては、日本ではあまり関わることのないアフリカ系の学生といつも交わる事で、抵抗がなくなり、海外渡航先ですぐにアフリカ系の人と打ち解けることができるようになりました。学生の意見を以下紹介します。

学年	意見
1年生	アフリカの方と会う機会が少ないため、はじめは抵抗があったが、今は一番話しやすい。
1年生	キャンパスで留学生に会ったときに話しかけられるようになった
1年生	留学をしたい
1年生	海外に行ってみたい
1年生	英語の勉強になった
1年生	自分は留学生と話すのに抵抗を持っていたが、そうでなくなった。もっとたくさんの方にこの活動に参加してもらいたい。
2年生	初めて海外の友達ができ
3年生	女子が少ないので来るのに抵抗が少しあるから、女子部員を来年は増やしたい。留学は女子のほうが行く人も多く、コミュニケーション能力を高めるのによい機会だと思う。
5年生	楽しかった。
5年生	他学部の学生とも交われてよかった。
留学生	普段の生活でもフットサルの日本人メンバーが助けてくれる
留学生	日本の学生と交流できる唯一の場
留学生	日本人学生のことを知れるのでこれからも参加したい
留学生	研究ばかりでは頭がおかしくなるので、定期的に体を動かせる場があつていい
留学生	医学部の学生が病気で困ったときに病院に連れて行ってくれ、お薬のことを教えてくれる
留学生	日本人学生と留学生の交流にとどまらず、農学部の多くの留学生の憩いの場ともなり、研究室を超えた農学部留学生同士の交流の場ともなっている。

6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

反省点は大きく2つです。

1つ目は女子メンバーの確保です。参加してくださる女子学生さんはいたのですが、時期がバラバラで男子が多い中一緒にすることになってしまいました。そのため、継続的な参加がしにくい環境になっていました。改善としては、フットサルを行いたいという女子学生や留学生は多々います。その学生たちに継続的に参加してもらえるように、4月に一気に大勢の女子学生を入れ、継続的に来てもらうようにします。また、体育館が全面で今年度は通年使用できるため、男子と女子を分けて2コートで行うことも考えています。

2つ目は、地域の方を交えたスポーツ交流が行えなかった点です。未達成であった理由としては体育館の工事があるのですが、①体育館が狭く人数を集めても活動を行うことができなかつた事、②体育館全面使用が1月からであったため、そこから募集をして、実施に持っていくまでの期間が短かつたということ（※定期試験期間に入るまで、活動を1月末までしか行えない。）があげられます。加えて、地域の方とスポーツ大会を開催するにあたって、予算が0円だと、「保険代」や脱水防止のための「スポーツ飲料代」、けがをした際の応急処置「医療備品費」などが実費となってしまいます。それらは請求しておくべきだと反省しております。特に、高校生以下が参加する場合は、参加への障壁を減らせるように、すべて無料で参加できる環境作りが必要だと思いました。

今後は、この反省点を踏まえて活動しています。

<2018年度の活動目標>

必達目標

- ・引き続き毎週活動を行う
- ・毎回平均参加人数25名越え
- ・女子メンバー8名以上
- ・地域の方も交えた活動
- ・新規の留学者を出す
- ・香川大学工学部の防災炊き出しボランティアへの参加要請に応える

努力目標

- ・4人目のトビタテ！留学JAPAN～日本代表プログラム～派遣生の輩出
- ・他学部・他大学の学生の参加

7. 実施メンバー

代表者 富本 卓（農学部3年）

副代表 岡田悠輝（医学部5年）

構成員

金川優樹	農学部	応用生物科学科
Matsobane Mogotlane	農学部	農学研究科
Mohamed Abdullah Adam	農学部	農学研究科
Chantanuson Ratchanon	農学部	農学研究科
シャカットプラカート ンボン	ソ 農学部(大学院)	応用生物科学科
夏目佳奈	農学部	応用生物科学科
今出雄太	農学部(大学院)	農学研究科
木下剛	農学部(大学院)	農学研究科
仙田敬大	医学部	医学科
石田卓也	医学部	医学科
池本直人	農学部	応用生物科学科
Steven Gateri	農学部(大学院)	農学研究科
向井大貴	農学部	応用生物科学科
橋井圭介	農学部(大学院)	農学研究科
熊淵功大	農学部	応用生物科学科
玉置裕也	農学部	応用生物科学科
中島稔生	農学部	応用生物科学科
岡本翔太郎	農学部	応用生物科学科
高松陽太	農学部	応用生物科学科
谷野輝	農学部	応用生物科学科
馬場英臣	医学部	医学科
Vu Thi Oanh	農学部(大学院)	農学研究科
高橋李璃華	農学部	応用生物化学科
上田真	農学部	応用生物科学科

他多数参加。

